

## 提出された意見と市の考え方

No.	提案箇所	提案された意見	市の考え方
1	—	<p>私達のまわりには沢山の組織がありますが、組織の中で時々現場の目線で知恵を出して考える、場をつくる、トヨタのようなQC活動を私たちのまわりにつくる事は非常に大切なことだと感じています。始めはQC活動もおもしろくないかもしれませんが自分達で考え行動していけばきっと良い社会になります。どうか行政としてこのようなQC活動をひろめるようにQC活動をして下さい。(一部抜粋)</p>	<p>ご提案いただいた内容につきましては、P161の「計画の進行管理」に記載しておりますので、計画は原案のとおりとします。</p>
2	—	<p>目標値の平成29年と平成34年の数値が同じものが多数見受けられるが、この目標はしっかり精査されたものになりますか。また平成23年と同じ数値の目標値も散見します。</p>	<p>今後の人口減少・財政規模縮小など、社会経済状況の悪化が予測されるなかにおいて、現状維持を目指すことも「成長」の一種であると考えますので、計画は原案のとおりとします。</p>
3	P24	<p>まちづくりの理念について、「幸福を実現」とあるが、何故「実現」という言葉を用いたのか説明が必要。</p>	<p>ご指摘いただいたとおり、補足説明を追加します。</p>
4	P26~29	<p>都市計画マスタープランの地域区分（都市地域・近郊地域・内海地域・表浜地域）のアイデアを総合計画に利用出来ないか。</p>	<p>都市計画マスタープラン P3に記載があるとおり、都市計画マスタープランは、上位計画である田原市総合計画に基づいて策定された計画であり、田原市総合計画の方針のもとで、個別具体の計画として都市計画の方針を示しているものでありますので、計画は原案のとおりとします。</p>

5	P38, 86~87, 95~96, 122~123	<p>今回の田原市総合計画改定が経済的な物差しのみですべてを測る考え方からの脱却を掲げたことについて、賛同します。</p> <p>今こそ、循環型社会をめざし、持続可能な開発に向けての教育＝人づくりを田原市にしか出来ない形でめざすべきだと考えます。</p> <p>田原市で行われる学びには大きく分けて 2 つあります。</p> <p>①グローバルゼーションの学び:世界に通用する工業、大量生産・大型化の農業、豊かな自然環境、などを生かした大きな循環のしくみ。</p> <p>②ローカリゼーションの学び:自給的な農業を営みながら、その過程や暮らしを学びとする小さな循環のしくみ。</p> <p>①は現在田原市が進めていることそのものですからすぐ実現可能です。②を進めるには田原市内に循環型の農業を営む農家を取りあえず10軒急いで作る取り組みを始め、大きな循環と小さな循環とが内外から見えて来るように発信をする必要があります。①②とも共通なのは、田原市に来て感じる必要がある学びだということです。そして、循環型社会の学びのプログラムの中心は、すべての人に関わる「食」でなければなりません。大きな循環のしくみと小さな循環のしくみ、この2つが共存する田原市に多くの人たちが学びに訪れることでしょう。学びに訪れる人も、受入れる田原市民もお互いの暮らしを見つめ学び合うことが真に循環型社会を築く一歩となるはずです。(一部抜粋)</p>	<p>ご意見については、計画を進めるうえでの参考とさせていただき、計画は原案のとおりとします。</p> <p>本計画案においても、学びの環境づくり・ふるさと人材育成を取り組みの重点に掲げ、推進することとしています。</p> <p>特に、市内の人材育成については、食育の推進と併せて、子どもたちが田原市の風土や文化、生業などを学び、体験出来る機会を充実し、地域の特性を活かした家庭教育、地域教育、学校教育を推進することとしています。</p> <p>また、市外からの学びについては、体験型観光として、田原市の強みである農業・漁業・工業・自然環境等を活用した観光推進を図り、その地域でしかできない本物の体験、人と人との交流を通じた感動などを得られる取り組みを進める必要があると位置づけております。</p>
6	P43	<p>施策の体系について、まちづくりの理念を頂点として、以下、将来都市像・方針へとつながっているが、「市民の幸福感」に資する取り組みは、重点プロジェクト・分野別計画など全ての取り組み・段階が「市民の幸福感」に結びつくはずであり、その達成度を計るものが幸福度指標であるので、その流れ・つながりを図に示したほうが良い。</p>	<p>ご指摘いただいたとおり、施策の体系図を修正します。</p>

7	P65~	健康福祉分野について、少子高齢化の進行するなかで、支出全体に占める割合が大きく、事業の充実や推進を計られる分野であるが、事業の見直しを計りながら支出を抑制出来ないか。	ご提案いただいた内容につきましては、健康福祉分野に限らず、全分野に共通する考えとして、P161の「計画の進行管理」に記載しておりますので、計画は原案のとおりとします。
8	P116~118	田原駅周辺の整備について、完成予想図を総合計画に掲載出来ないか。	分野別施策に掲載している、写真・図等は確定したものではなく、今後、計画書の印刷を行う際に、レイアウト等全体的なバランスを調整するものとし、掲載の検討をしていきます。
9	P158	「市民の幸福感に大きく影響すると考えられる7つの重点プロジェクト」と記載があるが、直接的な結びつきが見えない。記載方法を直した方がよい。また、同じくP158に「調査・研究」との表現があるが、研究とは具体的に何を行うのか。「検討」などの表現の方が適切ではないか。	ご指摘いただいたとおり、「幸福感」と「7つの重点プロジェクト」の関連について表記を変更すると共に、「調査・研究」の表記を「調査・検討」に変更します。
10	P159	市民幸福度指標は、不幸を除去する指標と幸福を高める指標の2種類に分けられる。言葉として表す必要はないが、見て分かるような表記をすべきである。	ご指摘いただいたとおり、表記を変更します。
11	P159	「田原市民が幸福を追求できる環境」とあるが、これがどういったものであるのか補足的な説明が必要。また、これがイメージであるならば、一概に幸福度の向上につながるとイメージし難い「未婚率の減少」は記載しない方がよいのではないか。	ご指摘いただいたとおり、「田原市民が幸福を追求できる環境」について補足説明を追加すると共に、「市民幸福度指標」の「未婚率の減少」については表記を削除します。
12	P171	市民幸福度指標で、女性の就労や社会進出が市民の幸福につながると思うので、市役所職員の幹部女性比率や議員女性比率などを取り入れられないか。	計画に掲載している市民幸福度指標は、直接的に市民の幸福に繋がると誰もがイメージしやすいものを例示しているものでありますので、計画は原案のとおりとします。 なお、市民幸福度指標に関する具体的な検討は、今後、検討組織を設けて継続的に実施していくものとしております。

